

氏名(本籍)	いし ざか ゆう じ (北海道) 石坂友司(北海道)		
学位の種類	博 士 (体育科学)		
学位記番号	博 乙 第 2297 号		
学位授与年月日	平成 19 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	日本のスポーツ界形成における象徴的権力構造に関する研究		
主査	筑波大学教授	教育学博士	松村和則
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	阿部生雄
副査	筑波大学助教授	教育学博士	清水 諭
副査	筑波大学教授	Ph. D. (Anthropology)	内山田 康

論文の内容の要旨

本研究の目的は、戦前のスポーツ界形成に関わった象徴的権力構造を解明することを通して、スポーツ界と国家との権力的結びつきを解明することである。

著者は、P.ブルデューが提起した場、象徴資本、象徴的権力闘争といった概念を用い、スポーツ界の構造的特徴をその形成期に遡って、歴史社会的に分析した。具体的には、スポーツ界形成の中心となる帝国大学卒業のエリートと彼らが活躍した大日本体育協会(体協)の組織構造を分析している。

のちに体協の重要なポストを占める人材を生んだ帝国大学ボート部の構成員を手始めに、運動と教養主義との対立、官・公立大学対私立大学との確執、体協の設立、オリンピックなど国際大会への参加を前提とする国策化、及び1940年東京オリンピック招致をめぐる体協内部の動きについて、それらに関わった人々を追ひ、国家との権力関係を明らかにした。

国家による補助金交付の請願、体協の法人化手続き、さらにスポーツ振興方策の答申といった体協の国家に対する働きかけは、国家によるスポーツ界に対する正当性の付与のみでなく、スポーツ界による国家の正当性の承認でもある。国家政策化によってエリートたちの象徴的権力が弱まった一方で、各種競技団体はエリートたちを排除しつつ自律化していったことをふまえると、スポーツ界が国家に対して相対的な自律性を確保すればするほど、国家の支配的な権力構造を温存することになるといえる。

審査の結果の要旨

分析対象の選択、さらに「象徴的権力」「国家」「スポーツ界」の概念と使い方について、より明確な説明が求められたが、積極的に応答した。P.ブルデューの理論をもとに日本のスポーツ界にまつわる権力構造を歴史的に分析したものとして評価された。

よって、著者は博士(体育科学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。